

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第32週 (8/3-8/9) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	32週	31週	30週	29週
小児科	13	17	18	18
眼科	4	5	5	5
インフルエンザ*	21	27	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	8/3-8/9	7/27-8/2	7/20-7/26	7/13-7/19	7/27-8/2
			32週	31週	30週	29週	31週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	1
	咽頭結膜熱		0	1	1	0	8
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	5	6	3	101
	感染性胃腸炎		32	32	27	44	209
	水痘		1	1	0	4	9
	手足口病		0	1	1	0	10
	伝染性紅斑		0	1	0	0	4
	突発性発しん		12	10	15	17	63
	ヘルパンギーナ		1	0	1	0	13
	流行性耳下腺炎		1	3	1	0	10
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	0	0	0
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	0	0	1	6
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		1	0	0	0	1
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(42件)

※新型コロナウイルス感染症38件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	IGRA検査	腸管出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認
結核	男性	80歳代	画像検査				
結核	女性	40歳代	IGRA検査等	新型コロナウイルス感染症	男女	10歳代~70歳代	病原体遺伝子の検出

・第32週は、結核3件(91)、腸管出血性大腸菌感染症1件(10)、新型コロナウイルス感染症38件(313)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第32週のコメント

過去10年の同時期と比べると、突発性発しんが平均をやや上回っている他は、全て平均未満となっている。

<トピック>

<新型コロナウイルス感染症>

・発生届

第32週の発生届は前週より減少し38件となり、合計は313件となりました。世代別では、40歳未満の占める割合が再び増加し、40歳未満が71.1%（27名）、40歳以上が28.9%（11名）となりました（図1-1）。

313件のうち、性別は男性186件（59.4%）、女性127件（40.6%）で男性が多く、中央年齢値は全体で38.0歳、男性で41.0歳、女性で34.0歳となっており、年齢階級別では20歳代（28.4%：89名）、50歳代（17.3%：54名）、40歳代（15.0%：47名）の順で多くなっています（図1-2及び表1）。

区別の届出件数では、中央区、若葉区、美浜区の順で多く、前週と比べると若葉区及び美浜区で増加しています（図1-3）。

図1-1 発生届状況

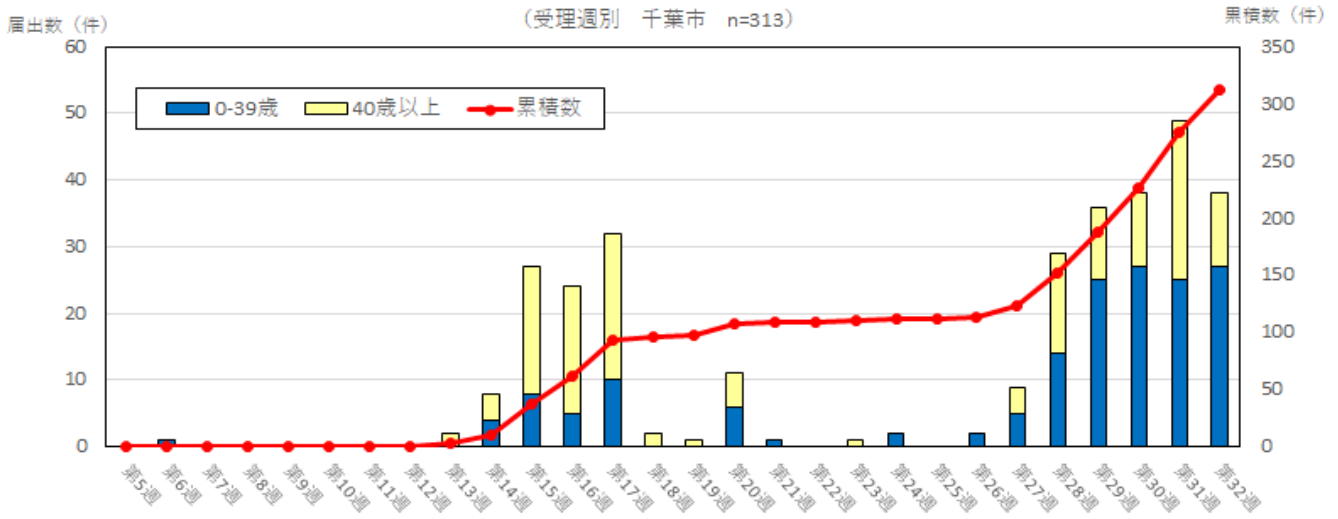
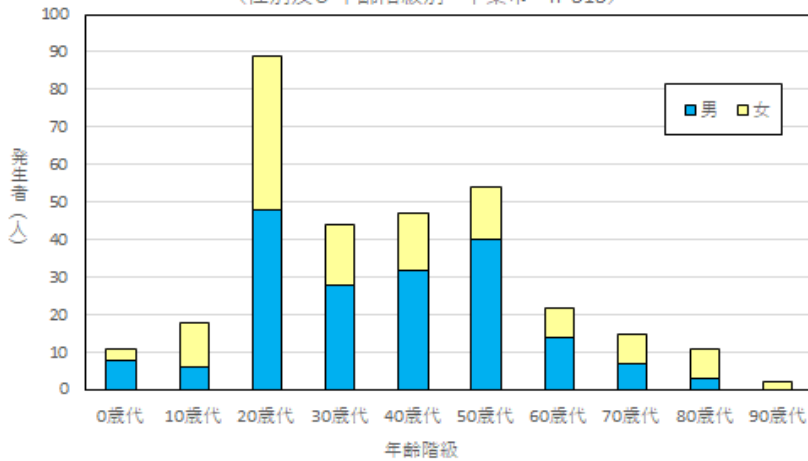


図1-2 発生届状況

(性別及び年齢階級別 千葉市 n=313)

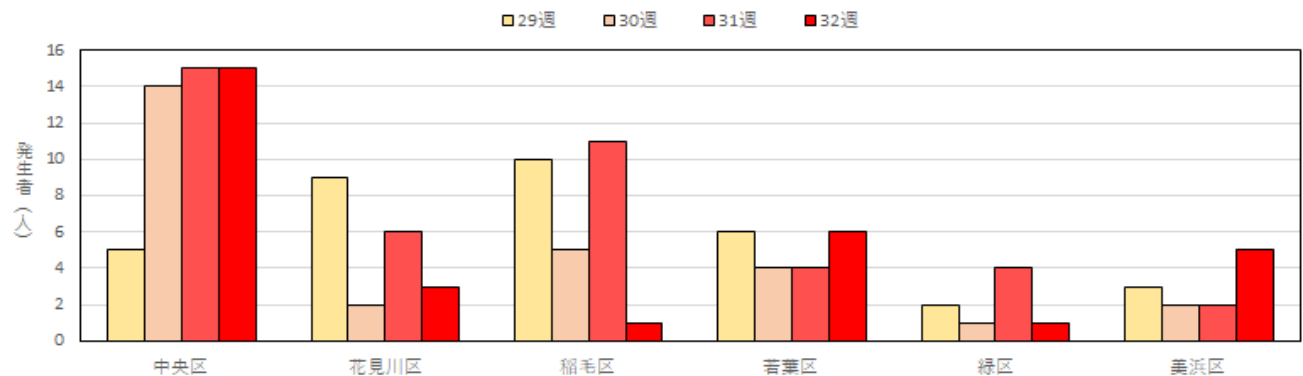


中央値	41.0	34.0	38.0	
	男	女	計	
0歳代	8	3	11	3.5%
10歳代	6	12	18	5.8%
20歳代	48	41	89	28.4%
30歳代	28	16	44	14.1%
40歳代	32	15	47	15.0%
50歳代	40	14	54	17.3%
60歳代	14	8	22	7.0%
70歳代	7	8	15	4.8%
80歳代	3	8	11	3.5%
90歳代	0	2	2	0.6%
計	186	127	313	100%
	59.4%	40.6%	100%	

表1 性別及び年齢階級別 (全期間：第5週～第32週)

図1-3 区別の発生届出状況

(直近4週分)



・ウイルス検査

千葉市環境保健研究所では、2020年第32週(2020年8月9日時点)までに7743例(検体数7936)について新型コロナウイルス感染症の検査を実施しました。搬入された市中感染・輸入例疑い事例は7481例(うち陰性化確認等263例)となっており、その他クルーズ船関連事例191例(うち陰性化確認126例)、その他陰性化確認等71例の検査を実施しました。

陰性化確認等263例を除いた市中感染・輸入例疑い事例7218例(検体数7360)については、陽性は292例(陽性率:4.0%)でした(図2-1)。陽性率について、年齢階級別では20歳代(6.1%)、50歳代(5.2%)、40歳代(4.2%)の順で多くなっています(図2-2及び表2-1)。また、過去4週間の陽性率の推移を世代別に見ると、第29週以降40歳代未満は減少している一方で、40歳代以上は増加していましたが、第32週は再び40歳代未満が増加しました。(図2-3及び表2-2)。

図2-1 新型コロナウイルス感染症市中疑い事例PCR検査状況

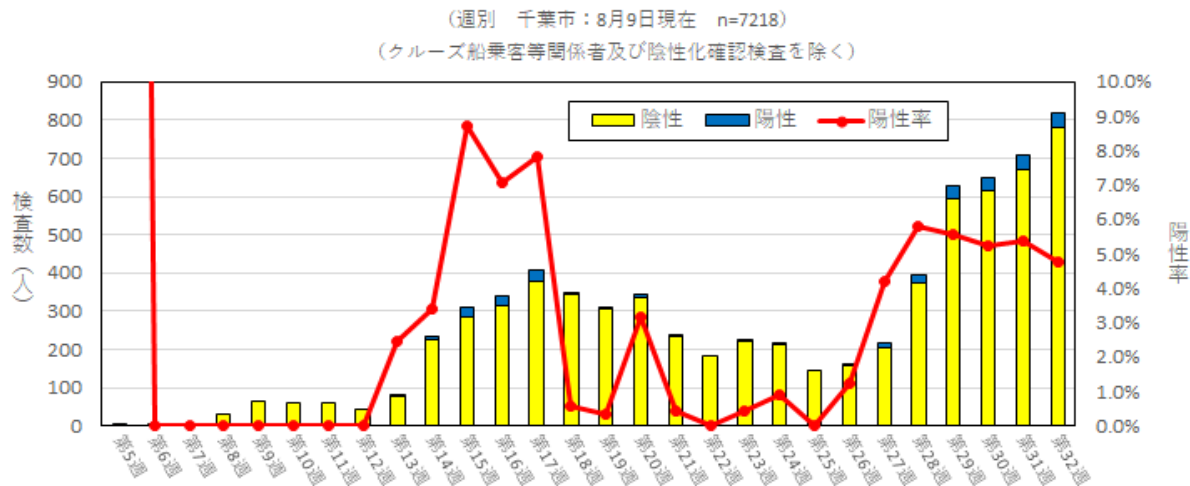
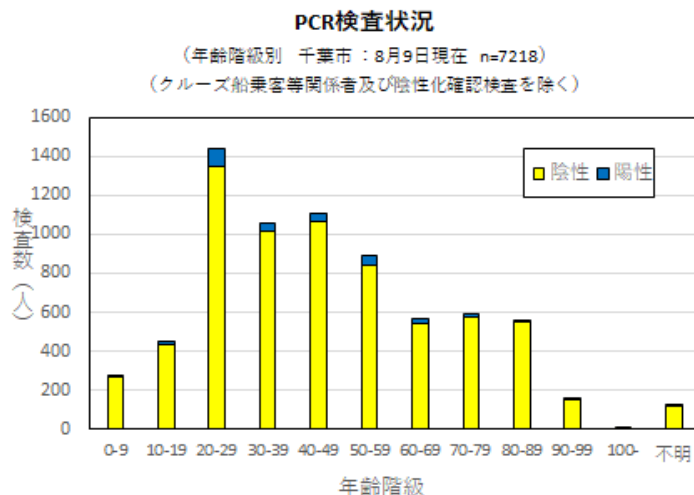


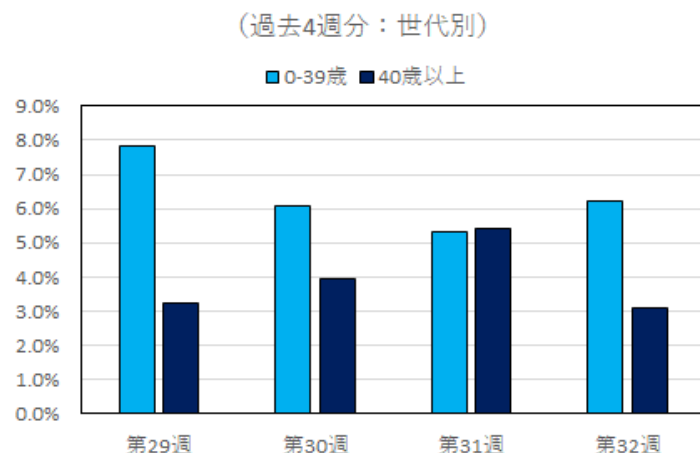
図2-2 新型コロナウイルス感染症市中感染疑い事例



年齢階級	陽性	陰性	計	陽性率
0-9	8	265	273	2.9%
10-19	16	435	451	3.5%
20-29	88	1352	1440	6.1%
30-39	40	1017	1057	3.8%
40-49	46	1062	1108	4.2%
50-59	46	845	891	5.2%
60-69	20	543	563	3.6%
70-79	14	579	593	2.4%
80-89	11	549	560	2.0%
90-99	2	153	155	1.3%
100-	0	9	9	0.0%
不明	1	117	118	0.8%
計	292	6926	7218	4.0%

表2-1 年齢階級別の検査状況

図2-3 検査陽性率の推移



検査数	第29週	第30週	第31週	第32週
0-39歳	320	395	356	434
40歳以上	308	253	350	385
計	628	648	706	819

陽性者数	第29週	第30週	第31週	第32週
0-39歳	25	24	19	27
40歳以上	10	10	19	12
計	35	34	38	39

検査陽性率	第29週	第30週	第31週	第32週
0-39歳	7.8%	6.1%	5.3%	6.2%
40歳以上	3.2%	4.0%	5.4%	3.1%
計	5.6%	5.2%	5.4%	4.8%

表2-2 世代別の検査状況の推移 (過去4週分)